

9月10日



9時から10時30分までバンジャムルン村で見せる怒田ムービーのミーティングをした。タクシーでスカイトレインのモチット駅へ行き、モチットからサヤームへ行く途中の駅で石筒先生と合流した。MBKのフードコートで昼飯を食べた。昼飯の後はバンジャムルンで作れる日本食の材料さがしをした。僕はいわゆる沖縄料理の「ソーミンチャンプルー」と「あんだみす」という味噌と豚肉を絡めたものを作る予定だ。ソーミンチャンプルーにはそうめんとツナがあれば基本的に大丈夫で、問題は「あんだみす」だった。あんだみすには、豚肉と味噌とみりんと砂糖が必要だ。豚肉と砂糖はバンジャムルンでも調達可能だが味噌とみりんは無さそうだったので買った。「ソーミンチャンプルー」と「あんだみす」の材料だけで500パーツ（1500円ほど）かかってしまった。その後、タイシルクを世界的に打ち出したジム・トンプソンの作った家を資料館兼展示物とした「ジム・トンプソンの家」に行った。ジム・トンプソンはムスリムの人々を雇ってタイシルクを売出した。さらに骨董好きだった彼は数種類の高床式住居を「収集」し、一つの敷地にまとめた。それが「ジム・トンプソンの家」になっている。また、ジム・トンプソンは晩年に失踪して以降姿を見たものはいない、という謎の死を残している。なんでこんなに物を集めたんだろう？と気になった。いくら好きだからと言ってそんなに集められるものだろうか？壺や像や絵画などの持ち運びができるレベルならともかく、家を「収集」するなんて考えられない。いったい何が彼を突き動かしたのだろうか。そっちの方が僕には謎だった。

その後MBKで必要品をショッピングし、タクシーでタマサートの寮に帰った。タクシーのおじさんにはじめ「高速を使わないで行ってもらえるか？」と伝えると「ありえない」

みたいな反応をされ、しびしび高速道路を使うという条件でタマサートまで送って漏られることになった。雨で渋滞だったこともりすこしブスッとしていた僕だったが、渋滞の列があまりに長いことに気づき、タクシーのおじさんの意見が正しかったことを思い知らされた。タクシーのおじさんはべつに自分の都合だけで高速道路を使えと言ったのではなく、ぼくらにとっても高速道路を使う方が早くタマサートに帰れて、料金も渋滞で1～2時間車に乗って料金を取られるよりは料金がかからないことを知っていたのだ。タマサートに着いてからは運転手さんを自分たちで道案内しつつ進んでいたのだが、途中で運転手さんが学生に道を聞いて寮に無事戻ることが出来た。その後、部屋に帰り寝た。

